

3 養殖の歴史

養殖業の最盛期から現在へ

ハマチやブリ養殖業者の大半が牛根境の人たちです。好景気に沸く日本経済のバブルがはじけるまで、牛根境はかつてない活況となり、最盛期には100を超えるハマチ養殖業者がいたといえます。

その後、バブルの崩壊に合わせるように、次第に経営体の数も減っていききました。これには、養殖業が自然を相手にしたものであり、作業の近代化や大型化、生産尾数の拡大に伴う餌不足、餌代の高騰など、養殖業をとりまく環境が厳しくなってきたことが関係しています。

現在は、経営体数そのものは、最盛期の約1割となりましたが、各規模は大きく、生産尾数も多く、今も牛根境の基幹産業として、日々の暮

らしを支え、日本の水産業の一翼を担っています。

昭和39年真珠養殖

養殖業は魚だけでなく、昭和39年には、真珠養殖も行われていた時期がありました。

真珠養殖（真珠用稚貝の養殖）は当初、桜島の麓に近いところで行っていましたが、同年に佐賀の山勝真珠株式会社60人ほどの従業員とともに牛根境の浜に進出したことで、牛根境で雇用が生まれ、約60人が採用され、大変にぎやかになりました。真珠養殖の方法は、川下から芦戸の浜にかけて沖合50〜70mまで足場用のいかだを浮かべ、「玉入れ」

とよばれるあこや貝の中に小さな玉を入れて、沖に吊り下げてある網の中へ移します。その後、真珠の玉が大きくなり、美しく輝く色になるのを3年近く待ちでぎ上がります。しかし、この間にフジツボが付いたりするので管理がなかなか大変だったそうです。若い人だけでなく、年配の人たちにもこのフジツボ落としなどは良い仕事でしたが、鹿児島の水温の高さなどが原因だったのか、貝に虫がついて次第に採算が合わなくなってしまう、創業10年近くをもつて撤退を余儀なくされました。



ダイジェスト HISTORY ③ 牛根漁協の歴史

- 昭和18年4月 牛根村漁業会 設立
- 昭和24年10月 牛根漁業協同組合 設立
- 昭和32年8月 桜島観光地蓄養池内にて網仕切アジ釣堀を開始
- 昭和32年10月 香川県引田漁協へハマチ養殖の先進地視察を実施
- 昭和33年 県内初のハマチ養殖を開始
- 昭和39年 真珠稚貝養殖の開始
- 昭和40年 境事務所 新築
- 昭和55年 ヒラメ養殖の開始
- 昭和59年3月 麓事務所に漁村センターが落成



上の写真は、桜島口近くにあった「牛根養魚場（鯛・ハマチ釣堀・休憩・宿泊施設）」の当時の写真。

下の写真は、現在の様子で、釣堀の堤防跡が残っています。